【おおいた起業家事情】「歩くための杖」で世界の人々の健康寿命を延ばす

分類：ブログ ｜ 投稿日：2026-05-25



株式会社MORI FAM 代表取締役 森達雄氏

本年2月に株式会社MORI FAMを設立した森達雄代表取締役にお話を伺いました。

（聞き手：おおいたスタートアップセンター コーディネーター 中本毅）

森氏は中学校の英語教員として長年教壇に立ち、現在も学習塾を展開する教育者です。そんな森氏が歩行杖の開発に踏み出したきっかけは、2021年の由布岳登山でした。拾った「くの字」に曲がった木の枝を杖代わりに使ったところ、その使いやすさに驚愕したと言います。適度な弾力が推進力を生み、手と足のリズムが自然と合うこの形状は「必ず人々の役に立つ」と確信し、開発を決意しました。

研究の末にたどり着いたのが、グリップから「1足長（足のサイズ）」下の位置で、杖の先端が1足長前方になるよう曲がっている独自の法則です。姿勢を保ち「歩くための杖」として進化したこの杖は「Issoku-CHO（1足長）」と名付けられました。弟さんの助言で特許を取得し、グッドデザイン賞や、2025年2月にはビジネスコンテスト「OITAゼロイチ」で最高賞の大分県知事賞に輝きました。同年10月の「九州・山口ベンチャーマーケット」発表会では大賞に準ずる「優秀賞」に選ばれ、2026年3月には大分県「特許・商標チャレンジコンテスト」で最優秀賞（商標の部）を受賞されています。利用者からは「以前の杖には戻れない」といった声が寄せられ、口コミで全国に広がっています。

順調に製品が広がる一方で、森氏はおおいたスタートアップセンターが共同運営する「Oita GROWTH Ventures」に参加し、ビジネスとしての持続可能性を模索しました。各協会に公認ポールとして認めてもらうため、あるいは医療現場への進出を開始するためには、法人としての信用が不可欠だと痛感したそうです。世の中に広く普及させる責任を果たすため、株式会社MORI FAMを設立しました。

森氏が大切にしている言葉に「箸（はし）よく盤水（ばんすい）を回す」があります。大きなたらいの水も、一本の箸で根気よく回し続ければ、やがて水全体が大きな渦になるという教えです。森氏は「最初は絶対役立つと信じて一人で回し始めましたが、全く水は動きませんでした。しかし、回し続けるうちに様々な人が加わって頂き、徐々に水が動き始めているのを感じます」と語ります。

現在は、アウトドア事業を行う株式会社ヤマップ（本社：福岡市）と共同でカーボン製トレッキングポールの開発を進めており、2026年3月にヤマップより「軽禅杖」としてリリースされました。登山などのスポーツ分野へ大きく進出しています。また、県内の介護老人保健施設 社会医療法人 敬和会と連携し、大分豊寿苑で医療・介護福祉分野に適する製品の開発を進めています。森氏は「10年後、渋谷のスクランブル交差点を渡る、杖利用者の3人に1人がこの形状を手にしている世の中を作る」というビジョンを持っています。しかし、その挑戦は国内だけにとどまりません。「この形状は世界のスタンダードになる力を持っています」この言葉が徐々に真実味を帯びて来ました。

最後に『創造おおいた』読者の皆様へメッセージをいただきました。「この形状を世の中に広めたいので、一緒に大分から世界を目指してタッグを組んで頑張っていける人が現れてくれたら嬉しいです」

純粋な思いと行動力で進み続ける森氏の挑戦を、当センターも引き続き支援してまいります。



由布岳登山で拾った木の枝



グッドデザイン賞



奥様とともに



「Oita GROWTH Ventures」最終デモデイにて

※本記事は『創造おおいた 2026年5月号』「おおいた起業家事情」に掲載されています。